

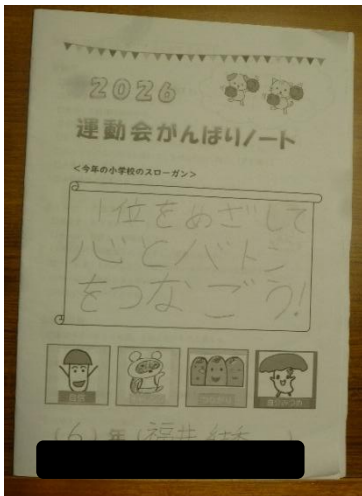


R8 西栗倉小学校だより

No. 6

令和8年10月6日（月）

運動会で得たものは何か



左の写真は、6年生が、運動会練習に向けた自分自身の目標を立て、その目標の達成度を毎日振り返って記録したノートです。

このノートを全員分、読ませていただきました。各々が、どんな思いをもって運動会練習に取り組んでいたのかが綴られていて、当日の演技に隠された子どものストーリーを読み解くことができました。

2週間ほどの記録ですが、その短期間でも、児童の心の変容があり、実体験を通じた成長が感じられました。

彼らの文面から、運動会を通してどんな力を得たのか、また、どんな気づきがあったのかを分析してみました。それぞれが異なった成長を記録してくれているので、全員揃ってというわけにはいきませんが、どんな力を得たと児童が感じていたのかを紹介します。

- 互いにアドバイスする力
- できそうにないことにもチャレンジする心
- 相手のことを考えたり、相手を信じたりした上で、互いに力を合わせたり、タイミングをはかったりすることの大切さ
- 高学年としての自覚
- 継続して反復練習をする大切さ
- 真剣に集中してやらないと、時に危険が及ぶこと
- 素早く行動すること
- しっかり話を聞いてから行動することの大切さ
- いろいろな人と息を合わせる大切さ
- 中学生に向けての希望
- 学級全体に笑顔が増えたこと
- 自分の役割を最後までこなす力



運動会という1つの行事ではあるのですが、これほど多岐にわたった気づきがあったことに驚きました。単に「協力」とか、「心をつなぐ」といった言葉だけではないのです。

1つの行事をこなす中には、多様な気づきや力を得るチャンスがあるのです。しかも、得られるものはみんな違います。1つの授業だけでは、これほど多くのものを1度に得ることは難しいです。これができるのが、特別活動の良さです。

ただし、今回の気づきや力をそのままにしていれば、本当に身につくところまでいきません。是非、今後の授業や行事において、自分の行動が変わるところまで意識して活用してほしいと思います。

行事は、やって終わりではなく、その後が大切なのです。6年生だけではなく、他学年においても、運動会で得たことを、今後の学びに活かしてほしいと願っています。

何を見て、何に取り組ませるのか

昔、ある書籍を読んでいて、なるほどと思ってメモをしておいた内容です。残念ながら、タイトルや筆者などは不明なのですが、「伸びる子の条件」という見出しを見て、つい夢中になって読んでしまいました。以下は、そんなメモの内容です。

さて、この条件には4つあると言われていました。

- ① 丁寧さ
- ② まじめさ
- ③ 挑戦意欲
- ④ 最後までやりぬく力

ただし、すべて当てはまらなければならないということではありません。1つあったら上等、せいぜい2つもあればいいのです。逆に、4つを求めすぎると無理が生じます。

いかがですか？皆さんが想像したことと同じでしたか？

こういったことを知ると、すぐ自分の子どもはどうかと当てはめてみたくなります。でも、これらは絶対的なものではないと考えます。これ以外の条件であっても、何かその子にキラリと光るものがあればよいと思います。

きっと、その子が伸びる条件とは、個々に違っているのだと思います。ですから、まずは、その子が持っているキラリを見つけてやるのが大切です。

では、その子にあったキラリを見つけてやればそれでよいのでしょうか？

前述した運動会の記事にも載せていますが、意識して継続して活動していかなくては、伸びを体得する域に到達しません。

上の4つを学校生活で考えれば、以下のような継続した活動がイメージされます。

- 丁寧さを活かして伸ばすために、ノートづくりに取り組ませる
- まじめさを活かして伸ばすために、授業時間を大切にさせる
- 挑戦意欲を活かして伸ばすために、授業中の自主発表にチャレンジさせる
- 最後までやりぬく力を活かして伸ばすために、掃除に一生懸命、取り組ませる

子どもを伸ばすためには、このような継続した取組が必要です。

このように見てくると、子どもの成長には、子どものどこを見て、何に取り組ませるかが重要になってきます。当然、今までもそうやってきたはずなのですが、今年度の折り返し地点にさしかかった今、もう一度、考え直してみたいと思います。

なんとなく今までやっているから、こういうものだからではなく、子どものどんな良さを見つけ、それをどのように成長に結び付けるかという視点に立ち、これまでの取組を振り返ってみたいと考えます。

新たな仲間が増えました

9月の終わりから、本校に転校生が1名、加わりました。これで全校児童は64人となりました。小規模校である本校としては、本当にうれしい限りです。

事前に本校のこと（あわくらみらい学やホームタイム等）をいろいろ知ってくださった上で転入を決めてくださり、なおさらうれしい気持ちになりました。

すでに、同学年の仲間には溶け込み、登校するときも通学班と一緒に来ています。新たな仲間を自然に受け入れることができるのも、本校の子どもたちの良さです。こうやって、少しずつ仲間が増えていくといいなあと思います。